

令和2年度自己評価表

1. 学校の教育目標

新潟こども医療専門学校は、学校法人新潟高度情報学園の組織の中の一つであり、その教育理念は学校教育法に基づき「商業実務および教育・社会福祉分野において専門的な知識・技術と合わせ、教養人格度の高い道義・礼節・作法をも身に付けた人材の育成」を目的とした教育機関である。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

こども未来学科・・・ 1年生は、レポートの書き方指導に力を入れる。学習方法について一緒に考える機会を設ける。

2年生は、コース選択に向け実習や学習の様子を振り返りながらガイダンスを通して一緒に考える機会を設ける。卒業生や上級生から話を聞ける機会を設定する。

3年生は、早めに就職準備に取り掛かれるよう外部実習と並行して自己分析の機会を設け就職への意識を高められる支援をする。

4年生は一人一人の希望に寄り添い一緒に将来を考えていくことや、肯定的に自己を見つめることができる声掛け等積極的にその機会を設ける。

こども発達学科・・・ 1年生は、学校のルール、貴重品の管理、授業中の態度、飲食物の扱い、挨拶など、学校の基本的なことに重点を置き、【自立・規律】の土台を作る。

2年生は、自立・規律をベースに、実習などの社会経験を積み重ねていただき、教員から伝えることは減少させていく（自立・規律の完成）。

3年生の1年間は、個人差が顕著に現れ、現場力が高まる貴重な時間である為、自分で自分を磨く時間とし、【自律する心】を養う。

こども学科・・・ 1年次は、学校生活の基本的なマナーを身に付ける（挨拶・清掃・提出物・自己管理）

2年次は、目的意識を持った就職活動と実現

医療事務総合学科・・・ 現場では幅広い人間関係を求められるため、クラスでは個別の関係に偏らず関わりを持てる環境を提供し、広い関わりを促す。学習の習得や家庭の状況などの面で様々な学生がいるということを念頭に置き、思い込みで判断せず注意深く学生の様子を見つけていくことを心掛ける。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・ 学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	④ 3 2 1
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 課題

日々変革を続ける社会情勢、18歳人口の減少、新型コロナウイルス感染症対策による授業形態、資格制度等を踏まえ、3～5年程度先における社会に適応するための学校のあるべき姿を中期的構想として思い描くことが今後の課題である。また、学科毎に関連する業界において求められる専門知識等の動向を調査することも大切である。

② 今後の改善方策

18歳人口の減少を踏まえ、定員数に対する入学者数を表す充足率の低下を防ぐため、学科毎の定員数の見直しを図る。また、新型コロナウイルス感染症対策として、対面授業だけではなくオンデマンドを活用した取り組み、3蜜を避けた授業形態の在り方を文部科学省の方針をもとにし策定する。

③ 特記事項

特になし

(2) . 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 3 2 1
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	4 3 2 1
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 3 2 1
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 3 2 1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 3 2 1
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 3 2 1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 2 1

① 課題

理念や教育目標を達成するため、短期・中期・長期の目標を示した計画の策定が必要である。サーバの変更により、バックアップデータ保存能力が上がったことは良かったが、サーバ内の情報混在、過多によって情報にたどり着くのに時間がかかることがあるため効率化をより図ることが課題となる。

② 今後の改善方策

単年度から3ヵ年程度の教育目標を実現するための方法を体系的に定めた内容の計画の策定。サーバ内のフォルダ、ファイルについて要不要、効率的に情報にたどり着くようにフォルダ内の整理、年度毎のデータの最新情報への更新等の効率化だけでなく、アクセス権限を利用したセキュリティ体制の確立。

③ 特記事項

特になし

(3-1) . 教育活動 (こども未来学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 3 (2) 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 (3) 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育 (産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等) が体系的に位置づけられているか	4 (3) 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4 (3) 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4 (3) 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員 (本務・兼務含む) を確保 するなどマネジメントが行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

1年生はコロナの影響で予定より実習の時間が減り学校での演習に切り替えた。それにより実践でしか身につけられない保育現場での立ち居振る舞いや子どもとの関わり方、日誌を実際を書くこと等の経験が不足した。2年生・3年生は外部実習を予定通り行うことができたが、部分実習や責任実習の経験が実習園により差が出てしまい不足している学生もいる。ただし、その分これまでより保育実習指導内での演習を増やし対応した。4年生は実習の時期が個人により異なり、学校でクラス全体で授業を行うことや一緒に何かを行う時間が大幅に減少し、一斉指導が難しい場面ができてしまった。

② 今後の改善方策

次年度もコロナの影響は考えられるため1年生は、少ない実習時間でいかに実践力を養うかということを考える。また、2・3年生は外部実習を行う前に今一度実習について丁寧に学生と見直し、学内での演習を行う。4年生は実習が多く授業時間が減るため、全体では何をするか、個人に対する指導では何をするか明確にし、一人一人に合った指導をきめ細かく行う。

③ 特記事項

特になし

(3-2) . 教育活動 (こども発達学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 ③ 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	④ 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	④ 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保 するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

① 課題

- ・学生の能力の個人差が大きいため、全体的な授業において理解するのに時間がかかる。個々に指導することが必要である。
- ・コミュニケーション方法、礼儀作法を身につける機会が無いまま進学してきている学生が多く、指導が必要である。
- ・1年生は例年のように毎日フルで授業をし、フルで実習に行くという経験が無かったため、2年生以降のハードなカリキュラムに耐えられるか不安である。
- ・1年生は実習経験が少なかったため、子どもの姿が想像できないと話す学生が多かった。
- ・学生のSNSを見て保護者から苦情が来るという出来事があった。(SNSの内容は、実習とは無関係の休日に旅行をしたというもの。まだGo To トラベルの期間内であった。)
- ・コロナでさまざまなことが中止になってしまった。

② 今後の改善方策

- ・教員が積極的に研修等に参加したり、教職員同士の情報交換をしたりして、授業内容や指導方法を見直す。
- ・実習を自粛していた期間に模擬保育を多く行ったことにより、現場での学びには及ばないが、座学と保育実技を合わせて学ぶことができた。今後このような状況が長引くことも予想されるため、授業の工夫をしていきたい。
- ・コロナ禍でもグループ園が1年生実習を受け入れてくださった上、「数少ない実習だからこそ『楽しかった。』という経験をして欲しい。」とご配慮くださった。このような状況で若者を園内に入れるということは感染リスクを伴い不安を生じるため、感染対策は実習先の指示に従って、気持ちの良い関係を継続していくよう努める。
- ・コミュニケーション方法や礼儀作法はホームルームなどの時間に指導するだけでなく、日常の(教員と学生の)やり取りの中で、その場で伝えるようにする。また、実習指導の中で「保育者の常識67」などの教科書を用いて、社会人の言動について具体例から学ぶ機会を持つ。
- ・学生には改めてSNSの怖さと利用方法を指導していく。また、すべての苦情については自分の発信したものに過敏に反応する人がいることを学ぶ機会と捉えていく。(保育者になるとホームページやお便りで広く発信する機会がある。)
- ・コロナであっても保育は止まらない。子どもの幸せのために何ができるかを考えられる人材づくりが大切。このような世の中だからこそ、人と人の繋がり大切さ、思いやりの心を学生に伝えていく。クラスの中で、実習の中で、嬉しかったことや感謝したいことがあったら全員で共有していく。
- ・次々と学校全体の行事が中止となる中で、学生はクラス行事を充実させようと努めていた。そのような自発的な試みは認め、教員としてもできる限りの協力をしていきたい。このようなことは今後、世の中でいろいろなことが起きた時の彼らの生き抜く力になるのではないかと考えている。コロナの中でも当校らしさを見失わず、教員も学生も新しいアイデアを出せるようにしていきたいし、そのような雰囲気を保っていきたい。

③ 特記事項

〔 特になし 〕

(3-3) . 教育活動 (こども学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 (3) 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 (3) 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育 (産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等) が体系的に位置づけられているか	(4) 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4 (3) 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4 (3) 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 (3) 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員 (本務・兼務含む) を確保 するなどマネジメントが行われているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

〔 今年度はコロナの影響で、時間が十分に確保できなかった部分と、無駄を省き効率的に学修できた部分とがあると思う。この機会に、取得単位や教科内容などを見直し、1教科を複数教員で分担するなどして、効率よく教育を提供できる環境が構築できると、学生の満足度も高まるのではないかと。 〕

② 今後の改善方策

〔 教科担当間での打ち合わせと、その内容を踏まえた体系的なシラバスの作成による授業の質の向上。 〕

③ 特記事項

1年次は、課題、対面、オンデマンドをうまく活用し、学生負担を少なく、満足度の高い授業実践ができたのではないかと。2年次は逆に実習時期が偏り、就職年次にふさわしいより高度な知識技術を得るまでに至らなかったかもしれない。

(3-4) . 教育活動 (医療事務総合学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 ② 1

① 課題

春に予定外の休講期間があったことで、学力が低い学生の中にはモチベーションが下がってしまう学生がいた。個別にフォローし受験するも合格に至らぬ検定もあり、今後小さな遅れが積み重なってクラス全体の流れに大きく遅れをとってしまうことが考えられる。

② 今後の改善方策

補習等行う際は一人ではなく複数に対しての指導を行い、学生が孤独感ではなく連帯感を感じることでモチベーションの維持につなげたい。また学生同士で教え合うことで教える側の理解も深まり、自信をつけてもらうことができる。

③ 特記事項

特になし

(4-1) . 学修成果 (こども未来学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
・ 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1

① 課題

就職に関し受け身の学生が増えてきた。自分から動こうとする姿勢がなく教員の声掛けがないと活動しない学生もいる。就職活動は学生主体であるべきだが、学生自身が考えて動けるような導き方を教員側で考えていく必要がある。

③ 今後の改善方策

4年間の中でのキャリア教育をどう進めていくべきかを今一度考えていきたい。未来学科の卒業生も増えたことから、様々な場所で活躍する卒業生とのつながりを強化し、在校生のキャリア教育の一助としたい。また、他学年との交流を活発にし、将来のキャリアをどう考えるか等意見交換を行うなど、刺激し合える人間関係づくりの構築を目指す。教員としては学生の小さな声を逃さないように、積極的に学生とコミュニケーションをとる中で資格免許や就職について話題にし必要な支援を都度考えていくよう努めたい。

④ 特記事項

特になし。

(4-2) . 学修成果 (こども発達学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	(4) 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	(4) 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(4) 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 (2) 1

① 課題

- ・ 学生が親の所有物ようになってきている。今年度は、学生自身の人生について親が道筋を決め、学校に注文や苦情を出す出来事があった。このような場合、学生の「自分で考える力」が弱くなり、うまくいかないことがあると「自分で決定したことではないから。」とリタイヤしやすくなってしまう。
- ・ 親と面談する中で、親の言動が学生と同じ未成熟の状態の時があり、家庭力の低下 (家庭での教育の低下) により、学生の質が落ちてきているように感じることもある。その場合、学生だけでなく保護者の意識の改革も必要となるのだが、かなり時間がかかるため卒業まで間に合わない。また、そこに教員の時間や労力が割かれてしまうと、他の学生への指導が行き届かなくなる可能性が大きくなる。
- ・ 高校卒業までに欠席の習慣がついてしまっている学生において、進学後、本当に保育の道に進みたいという強い意志があれば壁にぶつかっても立ち直れるが、「保育じゃなくても良かった。」「親が勧めたから。」というのが進学理由であると容易に退学を考えやすい傾向にある。
- ・ 今年度はどこの学校でも実習先や実習時間の確保に苦労したようだが、当校はグループ園のおかげで1年生のうちから実習を経験することができ幸いである。しかし例年よりも圧倒的に日数が少なく、学生は手探りで実習をこなしているという様子であった。
- ・ 今年も実習と就職の時期が逆になり、他の園に就職が決まっている状態で、免許取得の為の実習をさせていただくという大変申し訳ない状況が起きてしまった。また、学生たちにとっては全ての実習を経験しないうちに就職を急ぐため、あとから「こっちの園 (就職決定後に実習させていただいた園) も良かった。」などという言葉が聞かれた。
- ・ 今年度は保護者の個人面談を行うことができなかった。
- ・ サイボウズの報告書を活用することにより、様々な教職員から協力を得ることができ、安心に繋がった。
- ・ 今年度学科に男子が4名入学し、インスタグラムで彼らの入学～就職 (卒業) までを発信すると決め、クラスメイトのこと、授業のことなどを載せている。県外のFMラジオ局や企業からフォローをいただいていることから、社会に広く発信している責任を自覚させるとともに、彼らには男子保育者としての新しい社会貢献の仕方を模索して欲しいと期待している。
- ・ 今後Google classroomを活用し、卒業生のキャリア形成への効果を把握することから始めていく。

② 今後の改善方策

- ・縦割りを大切にしている発達学科として、2月に3年生の卒業研究発表会を学科全体で開催する。今までは3年生が自クラス内だけで発表していたのだが、後輩も3年生の研究を聞くことにより、在学中すべての時間、問題意識をもって様々なことを見聞して欲しい。
- ・今年度は1，2年生合同で保育実技研究を行う。まず、2年生が1年生の前で模擬保育を行う。そのあと1年生が指導案を立て、2年生から指導を受けた後で模擬保育をする。1，2年生は模擬保育後、保護者宛のお便り作成に挑戦する。自分で考える力を養うため、教員の指導だけでなく、学生同士の「教え・教えられ」という環境を多くしていきたい。また、先輩の姿から自分の将来の姿を想像することにより、前向きな気持ちで学校生活に取り組むことができるだろう。
- ・実習と就職の関係については、実習の時期を見直す必要がある。学生が焦ってすべての実習が終わらないうちに就職に走ってしまうことのないよう配慮をしていく。

③ 特記事項

特になし

(4-3) . 学修成果 (こども学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 ② 1

① 課題

- ・退学率について…コロナ対応の今年度のカリキュラムが、1年次には適切量だったのかもしれない。学習や実習の負担を理由とした退学希望者がいなかった。
- ・卒業生の動向を把握することが学校として必要なかどうか。必要なのであればそのシステムを作ればよいし、必要なければ評価する必要もない。

② 今後の改善方策

- ・コロナの影響により、学生に負荷をかけすぎず、しかし指導すべき点（環境への感謝、報連相等）はしっかり指導を行う、という今年度の指導形式は（個人的には）非常にメリハリがありよかった。
- ・共有連絡ツールとしてのクラスルームも有用だった。これを活用すれば、卒業年次の動向も把握可能である。

③ 特記事項

退学者の減少。

学生の質は向上傾向にあるように思う。学校として特徴を打ち出した、学生に寄り添った指導成果が現れているのではないかと。ただし、教育・保育者の育成という観点からの学生の見極めは必要と思う。

(4 - 4) . 学修成果 (医療事務総合学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 就職率の向上が図られているか	4	③	2
・ 資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
・ 退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	④	3	2	1

① 課題

就職活動の動きが始まる頃に休講等もあり、就職活動のピークの波が小さく活動の時期が例年より長くなっている。また求人数も少なく、正社員希望が多い中、保護者も学生も納得できる条件の求人が少なかった。

② 今後の改善方策

学生は促さなければ公開された求人情報に目を通さないこともあったのでハローワーク、学校求人どちらにも目を通す時間を割り習慣性を促す。新型コロナの影響で例年通りではないことも多いため、前例に頼りすぎず興味のある求人には活発に反応するよう声を掛けていく。

③ 特記事項

特になし

(5) . 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
・ 保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
・ 卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 課題

2020年度に続き、2021年度もコロナ感染予防の体制をより強固にすべきである。そのうえで、学生の経済・健康・課外活動・生活環境等への支援や、保護者を含め外部の関係機関等との連携を行うことで、学生への総合的な支援をすべきである。

② 今後の改善方策

各支援項目についての担当者の指定と支援内容や他部署との連携等について整備する。
加えて学生への広報活動を通し周知を図る。

③ 特記事項

特になし

(6-1) . 教育環境 (こども未来学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 3 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4 3 2 1

① 課題

（
 グーグルクラスルームの活用によりレポート印刷は前年度よりスムーズに行えるようになり改善されたと感じられる。またコロナ禍において自宅での学習を支える環境としても良かった。防災については前年より体制が整備され教員の役割分担は明確になった。しかし、倒れる可能性のある備品の整備がまだ不十分と考えられる。
 ）

② 今後の改善方策

（
 地震に対する防災体制の整備。
 ）

③ 特記事項

（
 特になし
 ）

(6-2) . 教育環境 (こども発達学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 3 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4 3 2 1

① 課題

（
 発達学科すべてのクラスのHRで防災について話し合った。
 ）

② 今後の改善方策

（
 グループ園の中で、避難訓練の時に子ども達に「非常食」のことを伝える試みをしている所がある。避難の仕方はもちろんこと、普段の生活に戻るまでの配慮や工夫、心のケアを学生にも学ばせたい。
 ）

③ 特記事項

（
 なし
 ）

(6-3) . 教育環境 (こども学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

改善方向に向かっているが、依然としてインターネット環境の不具合がある。印刷が全くできないクラスがあり、提携校のレポートシステムの煩雑さと相まって、担任負担が大きかった。防災についても同様。改善方向にあるが、体制を整備する必要がある。

② 今後の改善方策

インターネット環境の根本的な改善。
役割分担を含めた具体的な防災計画の整備。

③ 特記事項

学校全体のメールシステムとセキュリティシステムの整備は学校運営を円滑にしたと思われる。

(6-4) . 教育環境 (医療事務総合学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

インターネットの接続が不安定で、WIFIも遅い。クラス全員でインターネットを使用する際なかなか接続しない学生が数名出てしまい、作業に遅れが出てしまう。

② 今後の改善方策

インターネット環境の改善を業者等に依頼する。パソコン使用中は学生各自のスマートフォンでのWIFI接続を切り、回線使用を減らす。

③ 特記事項

特になし

(7) . 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4 (3) 2 1
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	(4) 3 2 1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1

① 課題

コロナ禍での学生募集をどのようにするか。

② 今後の改善方策

新たなコンテンツやオンラインの効果的活用などを検討し準備していく必要がある。

③ 特記事項

「高等教育の修学支援新制度」の認定校になることができた。経済的な理由で学びを断念する人の支援になるよう、広く告知していきたい。

(8) . 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	(4) 3 2 1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	(4) 3 2 1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	(4) 3 2 1

① 課題

在校生数の減少による収入の減少

② 今後の改善方策

学生募集の強化等

③ 特記事項

特になし

(9) . 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 3 ② 1
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 3 ② 1
・ 自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

① 課題

個人情報漏洩時の対策が未整備となっている。

② 今後の改善方策

個人情報の保護に関しては、研修会等を実施して、教職員の意識向上を図る。
昨年度、任意保険の加入を検討したが、未加入である。今年度、再検討する。

③ 特記事項

特になし

(10) . 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

① 課題

新型コロナウイルス感染拡大への意識から、社会貢献や地域との繋がりといった部分を縮小せざるを得なかった。具体的には「こどもまつり」「公開講座」といった活動が中止となった。
ボランティアの受け入れ先も少なかった。

② 今後の改善方策

感染対策と国や県の動向に注視しながら、コロナ禍の中でも可能な活動と方法を考える。

③ 特記事項

要望を受け、少人数での幼稚園教諭特例講座を実施した。

(11) . 国際交流 (必要に応じて)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	3	2	1
・ 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
・ 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1

① 課題

()

② 今後の改善方策

()

③ 特記事項

()